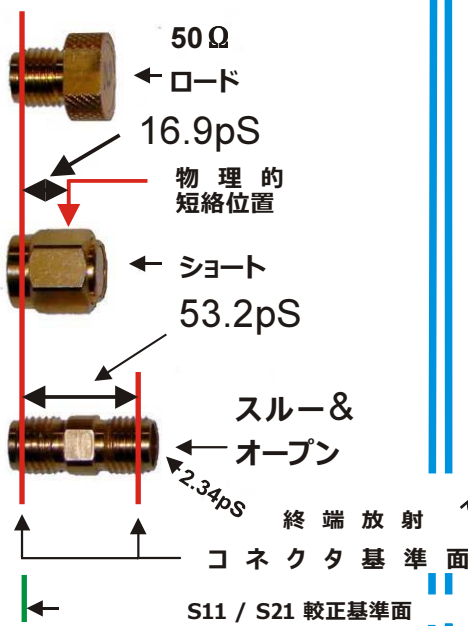


SDR-Kits社 - DG8SAQ VNWA用 Amphenol Connex社製CALキット基準

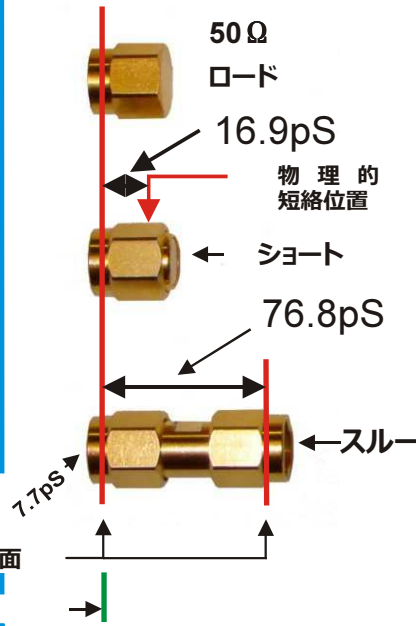
OZ7OU Kurt Poulsen 著

改定 2013年5月

キャリブレーションキット - メス



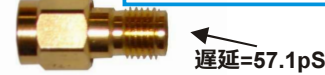
キャリブレーションキット - オス



本文書では、反射 (S11/S22)と送信 (S21/S12)用校正の為に "Calibration Settings" と "Simple SOLT" で必要とされる設定値をご案内致します。

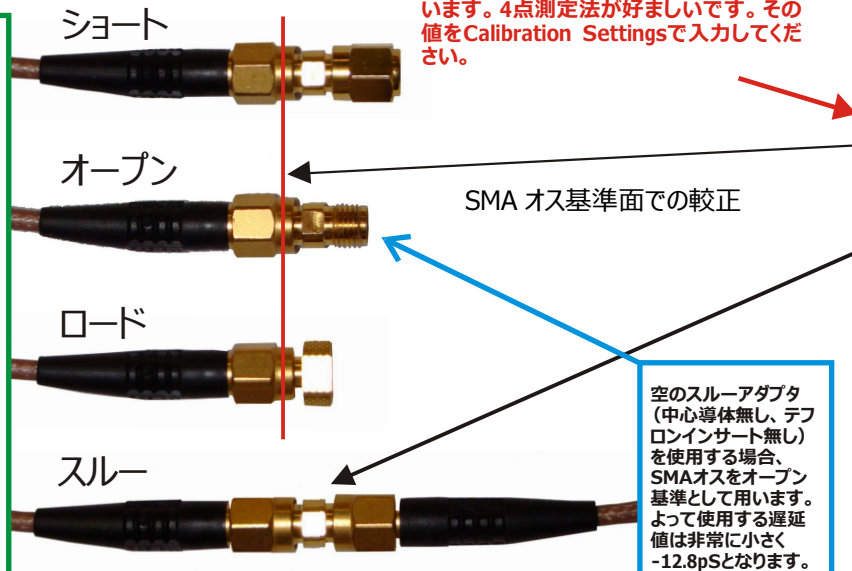
- VNWAシャーシ上のTX SMA コネクタの基準面で校正を行なう場合、“SMA オス基準面での校正”を使用してください。
- テストケーブルを使用して S11/S21両方の測定を行なう場合、S21のキャリブレーション時にスルーアダプタが用いられますが、実際の測定時にはスルーアダプタは取り除かれます。TX/RXポート間の影響を受ける送信遅延を補正する為、校正設定画面でスルーアダプタの遅延値を入力してください。その場合、反射と送信両方の基準面は、選定したテストケーブルの校正面と「同期」した状態にとどまります。
- DUT側のテストケーブルの終端がSMAオスの場合、Female Calibration Kit データを用います。又、同様にケーブルのSMAがメスの場合は、Male Calibration Kit データを用います。
- 一般用途では Crosstalk Calibration を使用しないでください。
- 常にDelay Thru は 0 ps に設定してください。それ以外の場合は、送信と反射は「同期」状態ではなくなります。

SMA オスメス アダプタ

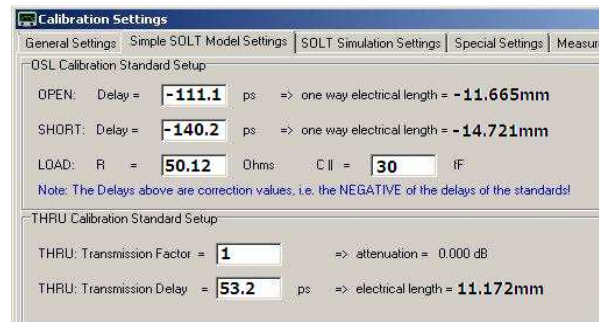
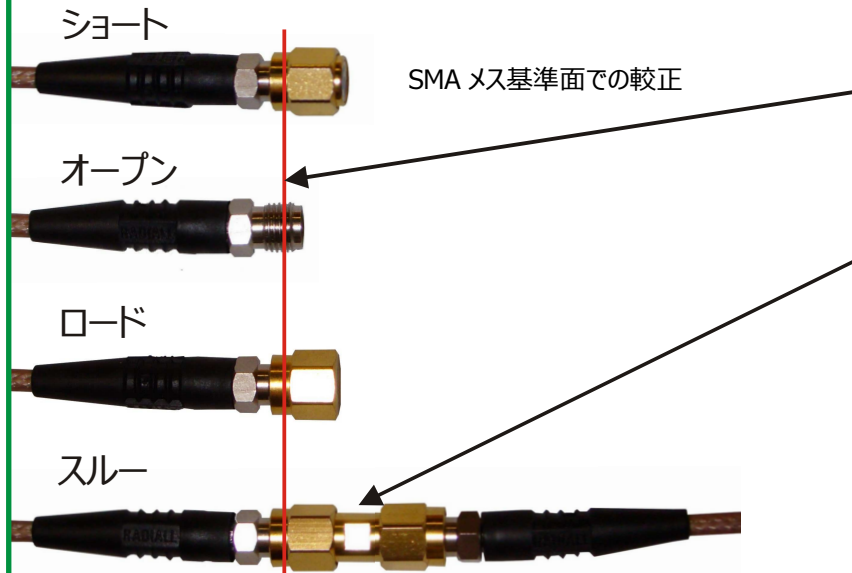


ロードの直流抵抗値は、ご自身で測定願います。4点測定法が好ましいです。その値を Calibration Settings で入力してください。

Female Calibration Kit

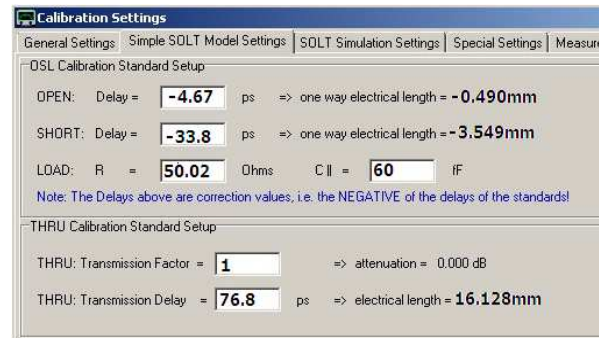


Male Calibration Kit



ヒント:

校正面は、Measure / Port Extension を使用することにより前後させることができます。Port 1は 進行方向 (S11とS21) に、Port 2 は、逆方向 (S22とS12) に使用されます。逆方向測定ではDUTは逆向きになります。正遅延により校正面はTXポートより遠ざかり、負遅延では逆になります。TXレベルが変更された場合、校正内容もわずかながら影響を受けます。VNWAソフトのHELPファイルを参照願います。



Delay Thru は 0 ps になっているか要確認!

Delay S21 > 0 ps の場合は、Port Extension値が有効になっています。

